

### 第34回 長野県中野西高等学校卒業証書授与式 式辞

北信濃、中野の地で暖かな陽の光の中にいつもより早い春の訪れを感じる季節となりました。そんなうららかなさとは裏腹に、今年度は10月に台風19号による甚大な被害が発生し、現在も懸命の復旧活動が続いております。改めて被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い平常の暮らしが戻りますことをお祈りいたします。加えて、現在、新型コロナウイルスの感染拡大が進み、いかに感染を抑え込むかが緊急の課題となっております。このような現状から第34回長野県中野西高等学校卒業証書授与式は卒業生と職員のみとなりました。卒業生の皆さんには保護者の皆様や在校生が参加できないことになってしまったこととお詫びするとともに、感染のリスクを最小限に抑え、今の危機的状況をのりこえるためであることを理解していただきたいと思っております。本来出席していただくはずだった保護者の皆様のご労苦と愛情に対し深く敬意を表し、お祝い申し上げます。

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ひと際、凛々しい皆さんの姿を見ることが叶い、とても嬉しく思います。さて、皆さんが本校に入学した平成二十九年(2017年)はどんな年であったか覚えていますか。北朝鮮がアメリカのトランプ政権発足後に核ミサイル開発を加速させ、大陸間弾道ミサイルの発射実験を繰り返す、米朝間の緊張が高まった年でした。弾道ミサイル発射で東日本中心に一斉に鳴り響いた「アラート」は流行語大賞の一つとなり、その年の「今年の漢字」では「北」が選ばれました。今年はオリンピックイヤーとなりますが、陸上競技男子百メートルで桐生祥秀(きりゆう よしひで)選手が9.98の記録を出し、日本人としては初めて十秒の壁を破った年でもありました。あれから三年の年月が過ぎ、皆さんはそれぞれ自分の目標に向かって一步一步近づいて、新しい世界に旅立とうとしています。

これから皆さんが飛び込む世界は大きく動いています。少子高齢化はすすみ、グローバルに競い合い、AI(人工知能)やロボット技術に代表される技術革新はめざましく、従来の年功序列や終身雇用を特徴とする日本型雇用システムは大きく変わろうとしています。かつてはできるだけ早く一つの答えに到達することが求められました。しかし、先が見通せない、未来が予測できない時代では答えが一つとは限らず、より良い答えを試行錯誤しながら導き出すことが必要になります。そんな時代に皆さんは自分の足で歩き、自分の翼で羽ばたかなければならないのです。

しかしながら、中野西で学んだ皆さんは恐れることはありません。それは中野西には二つのレガシーがあるからです。一つは開校当時から続くクリーンオリエンテーリング(C.O.L)、もう一つは校歌「イヌワシの歌」です。今年度のC.O.Lの時に雨の予報だったため、ゴールの時間を繰り上げて短縮しようとしたところ、自分たちにとって最後のC.O.Lなんだからチャレンジの時間を奪わないでくれという声があがりました。その時、皆さんの頼もしさとC.O.Lに対する思いの深さを感じました。C.O.Lには本校の校訓である「創造 探究 友愛」が凝縮されています。街をきれいにするという気持ちと仲間を信頼し、協力する「友愛」の精神をもって、直面する課題を「探究」、解決するために自ら考え、行動して、よりよくポイントをめぐりルートを見出す「創造」があるのです。苦難に向かって仲間と協力し合った経験が新しい環境で未知の世界に立ち向かう勇気を与えてくれるでしょう。

松下村塾を開き、明治維新にかかわる歴史上の有名人を輩出した吉田松陰の言葉を紹介します。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし 故に夢なき者に成功なし」つまり、成功する人には夢があり、夢を持つことから始まって理想、計画という具体的な道筋をつくり、それを大胆に実行することで成功が得られるということです。

校歌「イヌワシの歌」にあるように「♪夢は遙か 誇りは高く」自分の夢に向かいあきらめることなく勇気を持って行動し続けることが「夢の実現」につながるのです。迷ったら、校歌「イヌワシの歌」を口ずさんでください。

終わりに、皆さんの旅立ちを祝うとともに、これからの活躍を祈り、式辞といたします。

令和2年3月3日

長野県中野西高等学校長 宮原 弘匡